

挨拶

平田 直(国立研究開発法人 防災科学技術研究所 首都圏レジリエンスプロジェクト総括)

本日は、このシンポジウムを各界を代表する皆さまのご参画を得て開催することになり、大変ありがたく思います。この for R のプロジェクトは平成 29 年（2017 年）に 5 カ年計画として始まり、本年度で 3 年目を迎えます。一般的に 5 カ年計画のプロジェクトでは、3 年半ぐらいで中間評価があります。私どものプロジェクトも、今年、文部科学省の委員会で中間評価を受けることになっており、より一層、研究開発の実を上げてまいりたいと思います。

本プロジェクトにおいては、社会科学、理学、工学といった学術の学際的な研究をすることが重要な課題ですが、それ以上に、その成果を産業界、民間、行政の皆さまに使っていただけるような技術開発をすることが非常に重要です。そのためにこうして皆さまに参加していただくシンポジウムを開催していますが、特に今年度は、テーマ別の分科会を発足させ、より深い議論を進める方向に研究活動を進めてまいりました。今年度の第 1 回デ活シンポジウムでは、六つの分科会について紹介しましたが、本日は第 2 部において、その中の二つの分科会を中心とした議論を進めたいと思います。さらに、それを受けた形で、下村さんにモデレーターになっていただき、より深い議論を進めていきたいと思います。

その前提として二つの基調講演を用意しています。一つ目は、日本防災産業会議の試みについて永田さんからお話しいたします。私は地震学がバックグラウンドなので、ハザードとしてはいつも地震のことが頭の中にあります。地震だけではなく気象災害についても重要だという話をしていただけるとと思います。二つ目は、東京都の榎園さんから、首都直下地震などの対策についてお話を頂きます。

今も台風 15 号による災害が続いていますが、台風の影響により、停電などが発生することがあります。防災科学技術研究所は、災害が発生したときに、研究所としての研究をするだけでなく、災害対策基本法に基づく指定公共団体としてさまざまな社会貢献をしています。その中で、クライシスレスポンスサイトというものを運用しています。クライシスレスポンスサイトとは、日本が自然災害などによる危機に陥ったときに、さまざまな情報を統合し、それを整理した形で発信する仕組みです。このプロジェクトの中心的なメンバーの一人である防災科研の取出さんは、今日はこの会場に来ることができませんでした。彼は今、千葉県 of 台風 15 号の災害対応で現場の指揮を執っています。

取出さんは、今回の台風 15 号の災害に対する防災科研のクライシスレスポンスサイトを取り仕切っている人です。ここで取出さんをお呼びして、現状のクライシスレスポンスサイトについて紹介していただきます。

「台風 15 号(千葉県)に対する防災科研クライシスレスポンスサイトの対応」 (音声参加)

取出 新吾(国立研究開発法人 防災科学技術研究所 総合防災情報センター センター長補佐/首都圏レジリエンス研究センター センター長補佐 (プロジェクト連携担当))

図表1は、クライシスレスポンスサイトのポータルサイトです。左下の赤い四角で囲んでいるのが、現在私たちが運用中のクライシスレスポンスサイトのうち、千葉県のクライシスレスポンスサイトです。ただし、最近は気象災害が多いので、災害が起きるたびにクライシスレスポンスサイトを立ち上げるのではなく、台風や突然起こる気象災害に常に備えられる状態にしています。そのクライシスレスポンスサイトを今回の千葉県の災害にそのまま使っています。

9月10日に、私たち防災科研は内閣府防災と共に ISUT (インフォメーション・サポート・チーム) として千葉県庁に午後から出動しました。ここから私たちは千葉県庁で常時3名程度、防災科研の中では常時6、7名の人間が災害対応に従事しています。クライシスレスポンスサイトの上位版のように考えていただくといいと思いますが、一般に公開することができない機微な情報などを ISUT では扱っています。私たちは県庁で自衛隊と一緒に働いたり、つくばではバックヤードで支援活動をしています。

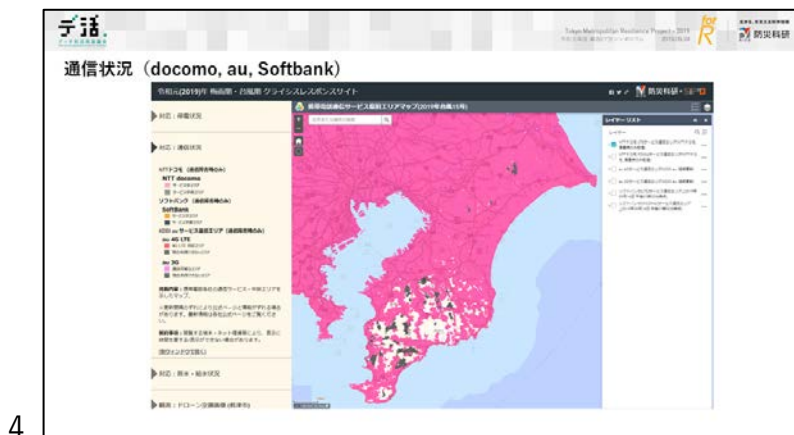
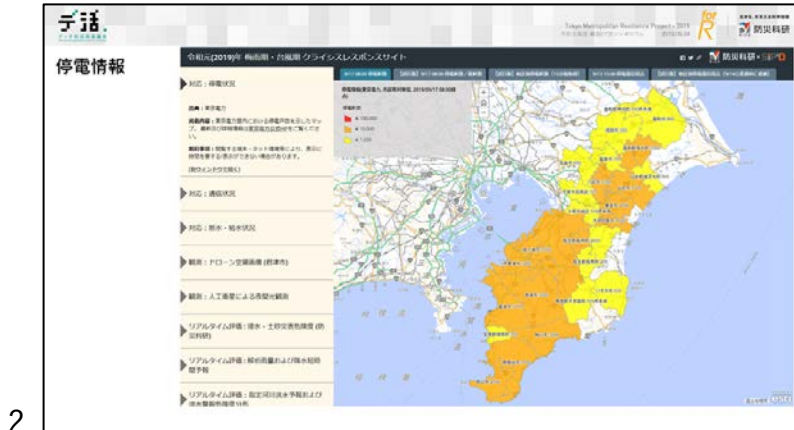
千葉県の台風 15 号による災害で、皆さんが最も興味を持ち、テレビでも報道されたのが停電です。われわれは東京電力さんから停電情報を頂き、それをクライシ



1

ストレスレスサイトおよび ISUT に提供しています。図表2が 9 月 17 日時点のものです、図表3が今日の 8 時時点のものです。だいぶ停電が減ってきていることが分かります。

au、NTT ドコモ、ソフトバンクの 3 キャリアの電波がどこまで入っているかという情報も常にクライシスストレスレスサイトに公開していましたが、3 キャリア全社復旧済みということで、今は更新を停止しています (図表4)。また、市町村が公



開している給水情報や、自衛隊が運営されている給水所・入浴支援、各市町村の断水情報などを一つのサイトに集約して公開しています（図表5）。

今回のクライシスレスポンスサイトの対応から、急ぎょ Twitter アカウントを作り、運用を開始しました（図表6）。今日時点で 1000 フォロワーを超えました。1 週間で 1000 フォロワーを超えたのは結構いい感じではないかと思っています。Twitter をやられている方はぜひフォローをお願いします。

（平田） 取出さん、どうもありがとうございました。私たちは、元々は地震災害のことを考えていましたが、地震災害だけではなく自然災害、場合によっては自然災害以外のさまざまな危機に対し、社会がどう対応していくかということを経験から皆さんと議論し、情報共有していく仕組みをつくりたいと思っており、あえて現場から報告をさせていただきました。

（司会：古屋） 平田総括、取出センター長補佐、どうもありがとうございました。ここからは第 1 部「先進的な枠組みとその事例 住民や従業員・職員の安全力を高める」です。第 1 部では基調講演を頂きます。首都圏における住民や従業員・職員の安全力を高めるためには、さまざまな主体の参画が重要です。われわれデータ利



活用協議会のように、既に関係企業・組織が連携し協議会活動を推進されている皆さんがいらっしゃいます。本日は、そのような方々からご講演を賜りたいと思います。